

地域と商店街をつなげる



輪島市まんなか商店街振興組合／福田建具店

《輪島市まんなか商店街振興組合 まちなか塾共通テーマ：「能登人」》

輪島市まんなか商店街振興組合×能登人

テーマ：日本家屋を彩る「伝統建具の世界」

1. 「福田建具店」について

- 店名 福田建具店
- 創業 1935年創業（今年で81年目）
- 代表者 福田 和稔（ふくだ かずとし）
- 所在地 輪島市河井町3-84
- 取扱商品
 - ・ふすま、障子など建具全般の製造販売のほか、オリジナル建具の注文製造
 - ・ふすま、障子、網戸の張り替えや修理
 - ・輪島大祭などで使うキリコの組み立てや修理



福田建具店外観

【特徴】

- 福田建具店の二代目で代表の福田和稔氏は、現在68歳。この道一筋50年、大ベテランの建具師です。ふるさと輪島を拠点に、長年にわたり、一般住宅・寺院・神社のふすま・障子・格子戸などを製造販売してきました。
- 日本家屋を彩る建具は、日本が世界に誇る伝統技術です。繊細で華麗な細工や美しい木目を活かした意匠、独特の木の香りなど、製品の一つ一つには、職人が培ってきた高い技術と知恵、風土の文化が凝縮されています。

- しかし、現代は住宅様式とライフスタイルの変化により、畳の部屋がある住宅すら無くなっています。さらに規格品が多く出回ることで、建具に対する需要が大きく減少しています。これは日本家屋の建築に関わってきた左官業や瓦業などの分野にもいえることです。
- また、建具の分野においても後継者不足が深刻な問題となっており、次世代への技術継承や営業継続が困難な状況です。
- そんな厳しい時代の中にあって、福田氏は地域住民の声に耳を傾けながら、オンラインのオリジナル製品づくり、ふすま・障子の張り替えや修理など、身近にできることから始め、建具店としての新しい活路を開拓しています。

2. まち塾【福田建具店】の概要とプログラム

- テーマ 特別公開・まちのお宝見学ツアー
日本家屋を彩る「伝統建具の世界」
- 塾長 福田建具店 二代目店主 福田和稔 氏
- 開催日時 2月20日(土) 13:00～15:00
- 会場 集合地：福田建具店
見学地：地域内にある塗師屋の住宅兼ギャラリー(輪島市鳳至町稻荷町42)
- 募集対象 建具や建築、伝統技法に興味のある方、地域の文化に興味のある方等
- 募集定員 15名
- 参加費 無料

【プログラム詳細】

- 今回のまち塾は、特別に市内の住宅兼ギャラリーをお借りして開催します。これは地域でも初めての試みで、普段は入ることのできないギャラリーを見学することができる、当塾だけの「お宝見学ツアー」です。「言葉で語るより、百聞は一見にしかず」という趣旨で、福田さんが長年の知識と技術を注ぎ込み、素材、技術とも最高レベルで創り上げた建具作品の数々を見ることができます。稀少価値が高く、輪島という風土の懐の深さをも感じる「地域の宝」となっております。
また、建具が持つ高い価値や建具作品について、塾長がわかりやすく説明します。
- 参加者が建具の良さを肌で感じ、理解を深め再認識してもらい、新たな顧客とリピーターの掘り起こしにつなげていきたいと考えています。

【当日の進行について】

13:00～ 福田建具店に参加者集合



(見学地へ車2台で移動)



13:15～ 見学地に到着

①まち塾の紹介、塾長の紹介

②特別公開・まちのお宝見学ツアー

見学地は以前、塗師屋の住宅兼ギャラリーとして使用されていた建物。至るところに伝統美を感じる日本家屋で、輪島ならではの風情も感じられます。

③塾長のおはなし

見学地の見どころや塾長が手掛けた建具（作品）の意匠・素材・技術解説を行うほか、福田建具店の概要、建具職人の仕事内容・魅力、そして今後取り組みたいことなどについてお話しします。

④参加者との交流

参加者同士が意見交換を行い、交流を深める中で、参加者が建具について感じたことや深く知りたいことについて塾長がお答えします。



見学地のギャラリー



主催：輪島市まんなか商店街振興組合

後援：輪島市

協力：石川県商店街振興組合連合会

石川県中小企業団体中央会

3. 輪島市まんなか商店街振興組合が実施する

「まち塾」の特徴と共通テーマ

【特徴】

- 輪島の地域資源「能登人」を前面に出します。協力店の店主や関係者の方に、「輪島の地域資源は何か？」と尋ねたところ、瞬時に「輪島の地域資源は人である」との答えをいただきました。今回のまち塾では、輪島の今と未来を築いていく上で最も大切な地域資源「能登人」と、ネットワークから生まれる新たな動きをプログラムに反映していきます。
- 幅広い世代が積極的に交流できる場をつくります
塾長は、地域を盛り上げてきたベテランから、新しい感覚で経営に取り組む若手の店主たち。参加対象者は、将来の顧客となる高校生から高齢者。多世代の価値観や考え方が共有でき、世代を超えた交流ができる場になります。
- 座学とワークショップの組み合わせで効果を高めます
当日は、店主のおはなしや連携する方々との対談といった座学の他、参加者のみなさんといっしょに専門知識を楽しく学ぶワークショップを開催します。

【共通テーマ】

- 全体に流れるテーマは「能登人」
「能登人」こそ、地域が誇る大切な財産です。輪島市まんなか商店街振興組合のまち塾では、若手店主からベテラン店主まで、地域で活躍するキーパーソンが登場。地域住民のみなさんとさらに深くつながり合うことで、地域と商店街の未来を描き、ともに活性化していくことを目的としています。

4. 今後まち塾に取り組む商店の紹介

【店舗名】セブンアイルズ（飲食店）

【テーマ】起業の楽しさを新築カフェで考える

「カウンターの内側」に立って見えること

【塾長】セブンアイルズ・アグラディート代表 田辺 和久 氏

【内容】①新しい仕事づくりと店舗拡大の夢について

②新築カフェバル「アグラディート」での仕事体験

③参加者とのトークセッション

テーマ：「あなたの大事なものはなんですか？」

【開催日時】平成28年2月28日（日）午後3時～午後5時

【会場】カフェバル アグラディート（輪島市マリンタウン4-9）

※カフェバル「アグラディート」は今年2月9日にオープンした、スペイン料理をベースにしたお店です。

5. 輪島市まんなか商店街振興組合について

●多彩な分野の店舗が並ぶ輪島の中心街

「まんなか」という名称の通り、輪島市の中心部である河井町中央通り沿いに位置する商店街です。約400メートル続く大通りを中心に、輪島塗を一堂に集めた輪島漆器会館から、輪島塗や土産物を扱う専門店、地元食材を生かした飲食店、暮らしや住まい、ファッションに関わる専門店、福祉・健康などに関わる店舗が軒を連ねています。道の駅・輪島から徒歩10分、輪島朝市通りから徒歩3分という交通アクセスは、地域住民だけではなく、観光客にとっても好立地といえます。



●くつろぎの拠点づくり

近年は、少子高齢化や後継者不足などの社会問題を抱えながら、商店街の新たな役割を追求した取り組みがなされています。その一つが「うるし・いやし・おもてなし」という商店街のスローガンを掲げ、子どもからお年寄りまで気軽に立ち寄り、くつろいでもらえる商店街づくりです。年1回の「まんなかフェスタ」の開催や、高齢者宅への配食サービス、地域住民が集う憩いの場「まんなかふれあいサロン」の運営など、組合メンバーが知恵を出し合い、手づくりの事業やイベントを実施しています。

●地域と商業活性化に向けた動き

現在、当商店街に面した道路の拡幅工事が進んでいます。これまでより約1メートル拡張されるため、今後は新しい空間づくり、魅力ある環境づくりが大きな課題となってきます。今回の「まち塾」も、地域と商業活性化の一策として実施。若手からベテランまでの店主がネットワークを組み、商店街の魅力を明確に打ち出しながら、商店街活動の持続と活性化をめざしています。



6. まち塾（まちなか商店学習塾）とは

～地域資源×商店×地域住民で、賑わい創出とまち・ひとの活性化へ～

●まち塾のスタイル

まち塾は商店主が塾長を務め、地域にお住まいの皆様にご受講者になっていただきます。塾長が専門店ならではの貴重な情報や地域への思いを語り、また、受講者の皆様の声に耳を傾けます。個性的で経験豊かな商店主の人柄に触れることができるでしょう。

●まち塾の目的

まち塾は、商店街のお客様だけではなく、地域にお住まいの皆様と商店や商店街との関係を深めるために開講するものです。まち塾をきっかけに新しい商店街活動が自主的に始まることを目的にしています。

●地域資源を活用するまち塾

まち塾は、地域資源を商店街活動に活用することを考えます。地域資源は特産品や文化財だけにとどまらず、まちの景色や風習であったり、魅力的な商店主や住民であったりして、想像力を膨らませれば無限に湧いてきます。

●今年のまち塾

まち塾は平成26年から始めました。昨年度のまち塾で「発掘」した地域資源には地域の病院、古い町家と町家の連なる街並み、ご近所にある保育園や幼稚園などがあります。それらを活用する試みとして「糖尿病予防の健康料理教室」「町家を活かした店づくりとモノづくり」「絵本の読み聞かせ」などのまち塾を開講しました。